

令和6年度 自己評価表

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

中長期目標	<p>「ICT活用教育を充実させながら、学科を超えた総合選択制による学びをととして、農業、情報、家庭、工業の幅広い知識や専門的な先端技術を習得し、地域産業に貢献する人材の育成を目指します。」</p> <p>①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育てキャリアの充実を図る</p> <p>②生徒の主体的で深い学びを促し、他者と協働しながら課題解決を図ろうとする能力を養う</p> <p>③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する</p> <p>④生徒一人一人の心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める</p>	今年度の重点目標	<p>「教育活動全体をととして生徒理解を徹底し、一人一人に応じたきめ細かな教育を行う」</p> <p>地域産業を担う専門人材の育成</p> <p>【自立を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進】社会で必要となる素養と規範意識を高める</p> <p>【協働の学びで自他を高める教育の推進】ニーズに応じた地域連携と地域貢献を積極的に行う</p> <p>【学びを創造する力を高める教育の推進】デジタルを活用しながら、探究的な学習を充実させる</p>
-------	---	----------	---

年 度 当 初					最 終 評 価 結 果			
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況 学校評価アンケート等評価基準 A80%以上B70%以上 C60%以上 D50%以上 E50%未満	評価	改善方策	
1 自立を促す教育の推進 キャリア形成能力を	基礎学力、専門領域の基礎基本の充実	○基礎力診断テストが4月より8月に向上した割合 1年51%(R4 43.6%) 2年74.6%(R4 72%) 3年69.7%(R4 69.4%) 結果は下降傾向(全国平均下回る) ○家庭学習ほぼ毎日 生徒 H31 25.9%→31.3%→30.2%→38.6%→R5 36.9%	○主体的に学習に取り組み、知識・技能を向上させている ○基礎力診断テストの結果が向上している ○家庭学習がほぼ毎日できている生徒が増加	○基礎力診断テスト結果を共有し学力向上対策を検討	○基礎力診断テストを年3回実施(3年のみ2回)し各学年で国数英3教科平均は全国平均には及ばないものの、国語は全国平均を上回る結果となった。 ○家庭学習をほぼ毎日している生徒は39.7%であり、昨年度と比較し微増した。		○生徒の学力の客観的数値として、基礎力診断テストの結果の共有化をはかる。	
	勤労観・職業観とキャリア形成能力の育成	○インターシップ・企業等見学は予定通り実施 ○自分の適性や進路希望を生かす進路指導 生徒 H31 79.3%→82.5%→85.5%→84.4%→R5 82.3% ○就職内定率100%(3月)うち県内割合82.7% 進学合格率98.9%(3月)うち県内割合50.5%	○進路学習をととして勤労観・職業観を高め、自らのキャリアを設計する基礎を身につけている。 ○自分の適性や進路希望を生かす進路指導が行われている ○就職内定率 100%、進学合格率 100%	○インターシップの体験先は生徒の進路選択の参考になるよう選定 ○就職試験への体制構築を含めた進路プログラムの練り直し ○各科を中心に個別の進学対応(小論文指導等)を実施	○3年生用で作成した『進路ガイドブック』は面接指導や各自の就職・進学対策等の場面でよく活用されていた。使いやすさの面で生徒からの評価は高かった。 ○就職内定率は100%であった。 ○1月末時点で進学決定率は100%とはなっていないが、各科での学びをさらに深めるべく国公立大学へチャレンジする生徒が増加している結果である。		○『進路ガイドブック』をより充実させるべく改訂を行う予定。 ○国公立大学希望者への支援体制の再構築をはかると同時に、進学希望者への面接指導体制を整備する。 ○校外模試の利活用を促すため、マチコミを利用して保護者への校外模試案内を行う。	
	資格検定への積極的な挑戦	○資格検定は概ね予定通り実施 合格率62.4%(R5) 一人あたり平均取得資格数1.6件(R5) ○高度な資格検定にも挑戦し取得者増 (スパー・農林水産業士、日本農業技術検定2級、電気工事士等)	○高度な資格検定に挑戦する生徒の増加 生徒一人当たりの取得資格数 1.7件以上	○合格に向け検定問題の研究・工夫(ICT活用・補習・社会人講師等)、不合格者対応等 ○国家資格等高度な資格検定への積極的な受検を推進	・「資格取得に熱心」と答えた生徒は86.6%(中間87.3)、「資格取得に計画的・組織的に取り組んでいる」職員は91.4%(中間92.5)である。 ・難易度別資格取得状況【1月31日時点】 (受験者数/合格者数/合格率%) スパー (0/0/0%) アトバンス (63/40/63%) ペーシック (447/378/84%) ・一人あたり資格取得数: 1.86件(昨年1.47) スパーの受験者が3年続けて0名。		B	・次年度は難易度別資格や校内顕彰資格の見直しを行う。 ・資格未取得者について各科で協議が必要。
	規範意識の育成	○掃除が行届き、すがすがしい環境 生徒 H31 62.8%→68%→60%→64.6%→R5 58% 教員 H31 52.7%→50.9%→58.4%→62%→R5 66.7% ○服装や身だしなみが整う 生徒 H31 92%→90.6%→84.4%→81.8%→R5 89% 保護者H31 67%→67.3%→61.6%→58.4%→R5 53.1% ○欠席・遅刻者数が多い	○規律ある学校生活を通して「見られる自分」を意識し、規範意識・社会の一員としての自覚を高めている ○掃除が行き届き、教室実習室等が美しく保たれている ○服装や身だしなみが整っていると回答する生徒保護者の増加 ○欠席・遅刻者数が減少している	○掃除用具の補充、リーストップ増量、ワックスがけ等掃除しやすい環境を継続 ○TEAS II 更新審査(R6.10月)合格を目指す ○授業規律、服装頭髪、遅刻等について校内連携、保護者協力を得ながら継続指導	・掃除用具の補充とモップの付け替え、ワックスがけを行い、汚れ防止・清掃しやすい環境を継続した。 ・ゴミの持ち帰りと節電節水の協力を呼びかけ、一方で放課後・授業中の見回りを学年・指導部等で行った。昨年度よりゴミの量使用電力を削減。10月に3年に1度のTEAS II 更新審査に合格。ゴミの量と電力等管理できていると高い評価を受けた。 ○服装や身だしなみが整っていると答える生徒 95% (R5 87%)			・リース以外のモップは洗濯と付け替え作業が必要で、管理していくことは困難。来年度予算を活用してリーストップをさらに増やしていき(現在リーストップの数は体育館10本、校舎内15本) いずれ全てをリースに変える予定。 ○日常の頭髪服装、挨拶等の指導について引き続き全職員で粘り強く取り組む。保護者への連絡を密にし、共有することで協力関係を築く。
2 協働の学びで自他を高める教育の推進	地域連携と地域貢献	○湖陵フェスタは通常規模で開催し盛況(来場約812名) ○地域と連携、学校外教育力活用 教員 H31 90.9%→80.3%→92.3%→94%→R5 87%	○学びの成果を地域で活かす経験を重ねることで生徒の学ぶ意欲を育て、地域に対して本校の教育活動の理解を深めている。 ○近隣の学校や施設等との交流活動をととして、地域の教育力を取り込み学びを深めるとともに、地域貢献の意識を高める	○湖陵フェスタは来場者が参加しやすく、より楽しめる体験など内容・形態を再検討 ○本校の教育資源を活用し地域との交流事業を継続・推進し、地域連携による学習成果を校外へ発信、連携が期待できる企業・施設・上級学校等を開拓	・湖陵フェスタは全ての催しを校地内で実施。 ・各科課題研究では地域連携、地域貢献を意識した研究を行っている。 ・「交流活動で学びが深まる」生徒68%があてはまる ・「地域社会と連携して学校外の教育力を活用」教職員93.1%(中間83)があてはまる		・湖陵フェスタの催しの見直し。体験的な活動を増やす。 ・3年課題研究の実施日を揃えて各科の交流促進、科を超えた合同チームによる地域連携、地域貢献に関する研究を行う予定である。	
	人権教育の推進	○人権や命を大切にす教育実践 生徒H31 79%→79.9%→92.3%→81.7%→R5 89.3%	○障がいのある方や異世代間交流、人権教育LHR等教育活動を通して、人権を尊重し自他を愛し共に生きる心を育む	○人権教育LHR等教育活動で、生徒が主体的に取り組めるよう工夫する ○公開人権教育LHRや研修会への保護者参加増に向けPTAとの連携を推進	・生徒の81.9%が、人権や命を大切にす心を育てる教育が行われていると答えている。本校は、学年ごとに講演会があり、生徒のアンケートでも良かったという意見が多い。		B	・すべての講演会で、質問コーナーを設けるなど、興味を引く展開を試みている。メンタルを題材にした人権教育LHRを展開し、日々の教育でも活かして行こうとするクラスもある。
	積極的な情報発信	○学校紹介DVD更新、学校HPにスクールビュー開設 ○授業参観日4回実施(Googleフォーム活用) 保護者57名参加、月1回の開催が定着化 ○保護者と連携 保護者 84%(R4)→85.9%(R5)	○保護者や地域に対して適切な情報発信ができています	○「鳥取湖陵チャンネル」(YouTube)や学校ホームページ、Instagram等の活用による積極的な情報発信を継続、生徒の保健活動をPTA広報誌や学校HP等で紹介 ○学校全体でタイムリーな情報発信 ○授業参観日の継続実施	・学校HP閲覧回数 36155(7/31~12/24) youtube チャンネル登録者数122人 23本の動画 8772回視聴(4/1~12/24) ・Instagram 投稿103件 フォロワー278人 ・「教育活動をHP等で積極的に情報発信」教職員 89.7%(中間79.3)が肯定的回答、全くあてはまらない0% ・課題研究発表会の実施。			・引き続き学校行事、学年行事、各科の行事をHP担当者が積極的に発信していく。 ・今年度整備の映像配信室や本校vtuber 陵美湖斗を活用し発信に努める ・農場参観日設置で農場での学びも参観してもらおう。 ・課題研究発表会の案内の範囲を広げる。

令和6年度 自己評価表

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

<p>中長期目標</p>	<p>「ICT活用教育を充実させながら、学科を超えた総合選択制による学びをととして、農業、情報、家庭、工業の幅広い知識や専門的な先端技術を習得し、地域産業に貢献する人材の育成を目指します。」 ①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育てキャリアの充実を図る ②生徒の主体的で深い学びを促し、他者と協働しながら課題解決を図ろうとする能力を養う ③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する ④生徒一人一人の心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<p>「教育活動全体をととして生徒理解を徹底し、一人一人に応じたきめ細かな教育を行う」 地域産業を担う専門人材の育成 【自立を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進】社会で必要となる素養と規範意識を高める 【協働の学びで自他を高める教育の推進】ニーズに応じた地域連携と地域貢献を積極的に行う 【学びを創造する力を高める教育の推進】デジタルを活用しながら、探究的な学習を充実させる</p>
---------------------	---	------------------------	---

年 度 当 初				最 終 評 価 結 果		
<p>3 学 び を 創 造 す る 力 を 高 め る 教 育 の 推 進</p>	<p>デジタルの活用と探究的学習の充実</p>	<p>○校内公開授業実践35回 ○授業がわかりやすいように先生が工夫 生徒H31 73.2%→80.7%→79.2%→81.3%→R5 82.8% ○授業改善に向け日々取り組む 教員 H31 81.8%→82.2%→84.6%→90%→R5 90.7% ○端末で授業に関心、主体的取組 生徒H31 69.7%→69.2%→68.4%→69.7%→R5 77.9% ○ICT活用に関する研修会で職員のスキルアップ</p>	<p>○実践的な専門教育を通じ、産業界で必要とされるより高度な知識、技能に挑戦している ○協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学びを実践し、主体的で深い学びに導く ○ICT活用教育を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつけている ○BYAD「一人一台端末」を有効に活用し、効率的な学習環境を実現する</p>	<p>○校内公開授業実践・授業参観を継続実施 ○ICT活用に関する研修会の実施、新システム(学習eポータル「まなびポケット」)導入に向けて検討する。 ○GoogleWorkspaceによる課題配信等で家庭学習時間の確保につなげる ○生徒の興味関心・意欲を引き出せる効果的なICT活用教材を全教科で研究</p>	<p>○年度当初の計画に基づき、各科で外部の専門家を招いた講座・実習や外部施設に出向いた実習を実施した。普段の授業も含めて、9割以上の生徒が専門的な知識技術が身に付いたと感じている。 ○ICT活用に関する研修会実施。今後の授業や校務で活用したいという感想が100%だった。 ○新システム(学習eポータル「まなびポケット」)導入に向けて検討したが、アプリの内容が高校段階にそぐわないことや費用の関係から、導入をやめることとした。 ○学び合いの授業やタブレット端末を活用した授業を通して、8割以上の生徒が「理解が深まる」「主体的に学べる」と感じている。 ○chromebook活用状況調査(生徒・教職員)を12月に実施。教職員の回答で、生徒の使用頻度について「月に1~2回」「ほとんど使用しない」の回答がある。科目の特性もあるため、数字だけで判断はできないが、今年度はchromebookの活用研修を行わなかったことも要因の一つかもしれない。 ○校内公開授業(1月末)の実施回数33回。(14名・6教科)後期に入ってから、参観者が微増。 ○図書館を活用した探究的学習が増加し、12月末時点で160時間。(R5年度実績104時間)</p>	<p>B ○chromebook活用の充実に向けて必要な環境整備を行ったり、研修の機会を設けたりする。(関係する委員会等と連携) ○生成AIの活用に向けて学校全体で取り組むために、主管を明確にする必要がある。(年度当初に生徒への説明等を行う計画を立てなければならない) ○図書館とICTを活用した探究的学習の充実を図る。</p>
<p>4 業 務 改 善 の 取 組</p>	<p>時間外業務時間の削減</p>	<p>○時間外業務時間数(教職員月平均) H31 14.1→11.5→11.1→13.6→R5 11.4時間 時間外業務時間年間計360時間を超える職員数5人 ○GoogleWorkspaceの活用(教職員間の連絡・情報共有、生徒への課題配信・アンケート等) ○校内文書共有データベースの導入(業務の迅速化及び公文書管理の適正化)</p>	<p>○時間外業務時間年間計360時間を超える職員を3人以下にする ○適切な業務改善を継続</p>	<p>○無理のない行事計画(成績締切・会議等)を継続的に検討 ○年休等が取得しやすい環境づくりの推進 ○部活動の精選を中・長期的に検討 ○学事システムの操作手順をマニュアル化、「百問繚乱」の活用等による業務の効率化 ○教職員連絡の端末配信の効率化を推進 ○紙媒体をデジタル化できるものの検討・実行 ○朝の保護者からの欠席等連絡の方法を検討</p>	<p>○時間外業務時間数は、10、11月で多く、月平均では昨年度実績わずかに増加した。年間360時間を超える職員は12月までで既に3人を超えている。 ○R6年の年休取得日数平均は10.5日(R5は12.4日)。 ○部活動の精選について、部活動指導が「ドライン」に従い廃止基準に達した部を廃部とする方向で進めている。部数を減らし部活動業務の軽減を図りたい。 ○第2回「百問繚乱」活用研修が行われ、利用者は増えている。 ○保護者からの欠席連絡用googleフォームは活用されているが、電話連絡も一定数ある。</p>	<p>C ○部活動による時間外業務時間が月30時間を超えないよう、翌月の計画段階で調整する。 ○欠席連絡用googleフォームは新入生に加えて2,3年生保護者へも、年度初めに利用の案内をする。</p>

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し
 [100%] [80%程度] 60%程度 [40%程度] [30%程度]